

## (6) 東中筋中学校

学 校 長 溝 渕 忠

校内研究代表者 弘 田 華 愛

### 1. 研究主題

「自ら考え、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」

- ①学力向上
- ②仲間づくり

### 2. 研究主題設定の理由

本校の教育目標である「知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒の育成」を目指し、研究主題を設定している。

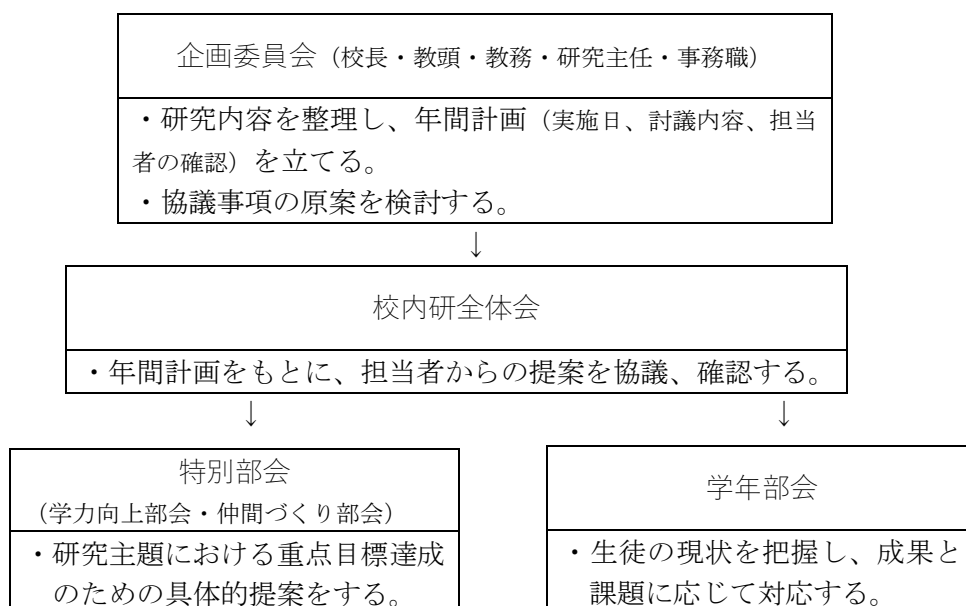
本校には毎年、部活動の関係で校区外から複数名の生徒が入学してくる。それに加え、校区内の小学校の卒業生は何割かが校区外の中学校に進学することもあり、新入生はそれぞれに新たな人間関係を築いていくことになる。また、本校は小規模校であるため、生徒一人一人に教職員の目が届きやすいという、人的には豊かな教育環境にある。その一方、生徒は与えられたことに対しては素直に取り組むが、自分で主体的に考え工夫し、学習に取り組む姿勢に弱さが見られる。しかし、自ら高みを目指し一步を踏み出せるようになれば、伸びる可能性をもった生徒たちである。このような生徒たちに、自ら考え実践できる力をつけたいと考え、研究主題を設定した。

21世紀を生きる生徒たちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。そのような力をつけるために、学力面や生活面の課題に即して、特別部会（学力向上部会・仲間づくり部会）等による具体的提案及び実践を通して、重点目標の達成を図る研修を進めていきたいと考える。

### 3. 研究の進め方と方法

#### (1) 研究体制

教職員の意思統一を図り、取組を充実させるために、以下の体制で計画的に研究を進めていく。  
なお、第1週、第2週に校内研、第3週に職員会、第4週に学年部会という設定を基本とする。



## 4. 研究内容

### (1) 学力向上への取組

#### ①わかる授業づくり

- ・授業評価を授業改善に生かした。学期末の授業評価アンケートには共通項目を設定し、課題に対し全体で対応できるようにした。
- ・思考過程のわかるノートづくり、学力定着のためのノートづくりに取り組んだ。ノートの活用について生徒の意識を高めるため、HNGP（ひがなかノートグランプリ）を学期に1回実施し、お互いのノートから学ぶ機会をつくった。
- ・基礎学力の定着に向けて、チャレンジタイム（15分間）を活用し、授業とリンクさせている。国語・数学・英語の基本的事項の習熟を中心に、必要に応じて理科・社会に取り組むこともある。
- ・話すことの育成を目指してPerattoを活用し、根拠や具体例を挙げて自分の意見を述べることや、聞き手意識をもって発表することを意識した取組を行った。
- ・学力調査後には結果分析を行い生徒の強みや弱みを全体共有し、その後の指導に生かした。

#### ②教科間連携の取組

- ・全教員が同じ学級で研究授業を行い、生徒の実態や課題を共有して授業改善を図った。
- ・授業研の1週間前に、学習指導案の検討を校内研修として設定した。学習指導要領解説を用いて単元で育成すべき資質・能力や身につけさせたい力を全体で確認した。
- ・研修会で学んだことを日々の授業実践に生かした。

### (2) 仲間づくりへの取組

#### ①行事

- ・新入生歓迎行事（レク）、小中合同運動会などの学校行事を通して、生徒同士のつながりを意識させる。
- ・キャリアパスポートの活用については、運動会、カヌー、総合学習、交流学习の取組等の始めと終わりに記入させるようにした。

#### ②学級

- ・Q-Uアンケートの実施（5月と10月頃の2回）後、結果を見てスクールカウンセラーとその後の対応について話し合い、各学年に提案した。また、Q-Uアンケートの分析を受けて学級担任との個別面談を行った。
- ・スクールカウンセラーとの連携について、1学期は全学年2回ずつ、2学期は全学年1回ずつ校内支援会を行った。その他の取組として、2学期は1年生でアサーショントレーニングを行い、スクールカウンセラーによるエンカウンターを学期に1回実施した。

#### ③生徒会

- ・学期に一回、生徒会主催によるレク「仁JINタイム」を実施した。
- ・今年度は専門部を3つに再編成したことで生徒会活動の活性化を図った。
- ・国見駅の清掃についても継続して実施した。

#### ④その他

- ・地域と関わる活動→地域に貢献する活動として、ライフサポート部主導で地域の清掃活動を行った。また、発展期の教員による研修で特別支援の視点に立った授業づくりの研修を行った。

## 5. 今年度の成果と課題

### <学力向上への取組>

#### ①成果

- ・年間を通して同じ学級で研究授業を行い生徒の姿をもとに検証することで、生徒の実態に応じた課題の設定や発問のあり方について考えることができた。
- ・他教科の授業を参観することで、教科横断的な視点をもって授業づくりに取り組めるようになった。
- ・根拠や具体例を述べる活動をすべての教科で行い、自分の考えを発表する機会を全体で共通してもつようにした。

#### ②課題

- ・生徒の「読み取る力、聞き取る力、表現する力」などの育成を図る。
- ・高知県学力定着状況調査において、目標値に届かなかった問題については基礎基本の定着に課題が見られたため、学習課題や家庭学習の充実、帯タイムの活用等を通して改善を図っていく。

### <仲間づくりへの取組>

#### ①成果

- ・少しずつではあるが、生徒会活動の活性化が進むようになった。
- ・専門部での取組が生徒の主体性の高まりにつながった。(地域清掃活動・給食の残食調べ)
- ・スクールカウンセラーとの連携を昨年以上に深めることができた。

#### ②課題

キャリアパスポートを活用する機会が少なかった。年度当初に、どの行事で記入するかというのを特別部会で提案し、全体で確認する必要があった。